●読むこと、書くこと
英語 10　短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(１)と(２)の問いに答えなさい。

(１)【まいこが書いた文章】を読み、まいこが最も伝えたいことを、<解答欄>の１から４までの中から１つ選びなさい。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

<解答欄>

○ 1　Many junior high school students use the internet to play games.

○ 2　Junior high school students should use the internet for learning more often.

○ 3　There are many good videos for learning English.

○ 4　We can find the meaning of an English word quickly.

(２) まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

<解答欄> ※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか

※実際の画面の配置とは異なっている。

英語の文章の解説

“Today, many junior high school students use the internet to play games.” は、中学生の現状を示している。 “I think we should use the internet for leaning more often because it is useful.” は、まいこが最も伝えたいことを示している。“For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand.” は、インターネットの使用が学習に役立つ１つ目の具体例とその詳細を、“Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.” は、２つ目の具体例とその詳細を示している。

出題の趣旨

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

「要点を捉える」とは、例えば、説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、含まれている複数の情報の中から、書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えることである。文章全体を読み通した上で、複数の情報を取り出し、どの情報がその説明の中で最も重要であるかを判断することが求められる。

また、「自分の考えとその理由を書く」とは、「聞いたり読んだりしたこと」の要点を捉え、自分が考えたことや感じたことなどを、その理由を交えて書くことである。その際、聞いたり読んだりした内容に関する賛否や自分の意見を述べたり、自分の意見や主張とその理由や根拠の関係を明確にしたり、内容を整理して述べたりすることなど、論点を明らかにしたり順序付けを行ったりすることにより、読み手にとって読みやすく分かりやすい文章を書くことが重要である。

英語10では、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることができるかどうかを把握するとともに、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかを把握することをねらいとしている。

設問（１）は、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることができるかどうかを把握するために、インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する問題とした。

設問（２）は、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかを把握するために、インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く問題とした。

設問（１）

趣旨

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における目標

読むこと

ウ　社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

読むこと

(ｴ) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
10	(1)	1	**1** と解答しているもの	8.6	
		2	**2** と解答しているもの	48.1	◎
		3	**3** と解答しているもの	19.1	
		4	**4** と解答しているもの	23.9	
		0	無解答	0.2	

（N= 861,464 人）

２．分析結果と課題

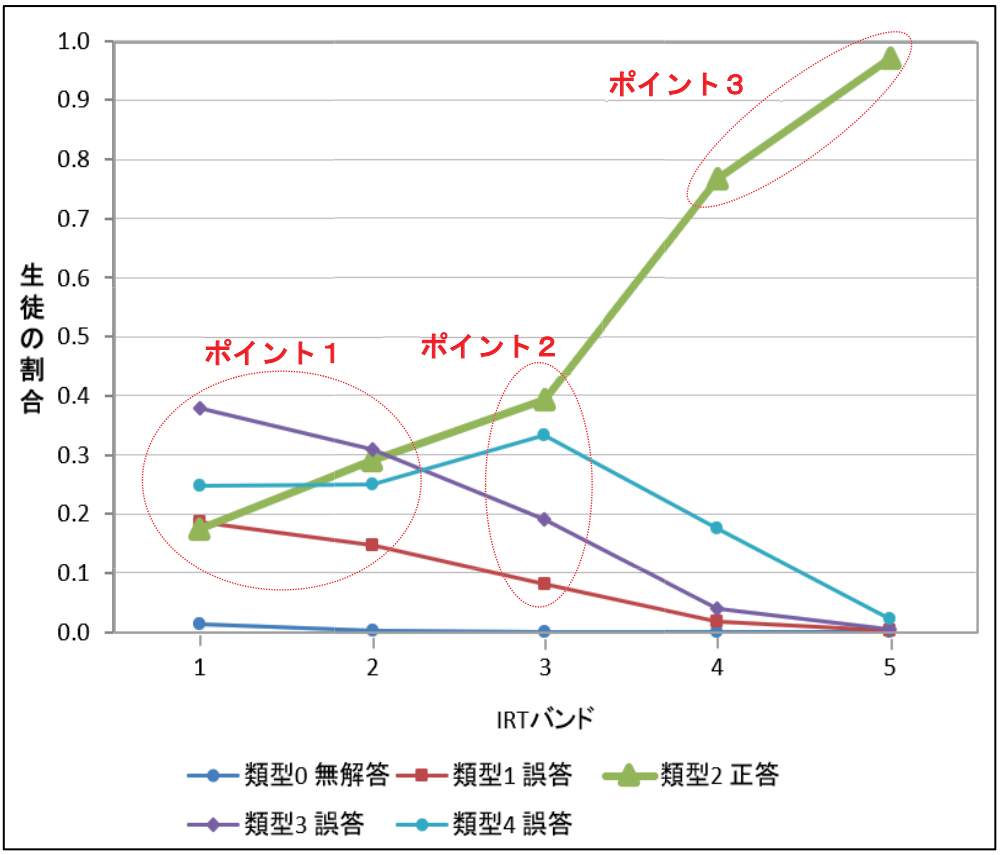
○　正答率は 48.1%である。インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する本問では、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることに課題がある。解答類型１の反応率 8.6%と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が 19.1%、解答類型４の反応率が 23.9%と高い。

○　解答類型３に該当する生徒は、インターネットの使用が学習に役立つ具体例を、まいこが最も伝えたいことであると誤って捉えていると考えられる。選択肢３の英文が　“many” “good” といった主観を表す形容詞を用いており、書き手が最も伝えたいことだと誤って捉えた可能性が考えられる。あるいは、 “I think …”や “we should …” などの表現を、書き手が伝えたいことを表す表現だと判断することができなかった可能性も考えられる。

○　解答類型４に該当する生徒も、解答類型３と同様に、インターネットの使用が学習に役立つ具体例を、まいこが最も伝えたいことであると誤って捉えていると考えられる。選択肢４の英文が “We can find …” と助動詞を用いており、書き手が最も伝えたいことだと誤って捉えた可能性が考えられる。あるいは、文章全体の最後に、選択肢４の英文が書かれているため、大事なことは文章の最後に書かれていると誤って捉えた可能性も考えられる。

○　令和５年度【中学校】英語 8 （１）では、社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみるために、ロボットについて書かれた英文を読み、書き手が最も伝えたい内容を選択する問題を出題し、正答率は 56.6%であった。今回の結果から、社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることに引き続き課題があると考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１に属する生徒の約４割、および IRT バンド２に属する生徒の３割以上が、誤答である解答類型３を選択している。また、IRT バンド１、２それぞれに属する生徒の２割以上が解答類型４、１割以上が解答類型１と解答している。つまり、IRT バンド１、２に属する生徒の多くが、「インターネットの使用が学習に役立つ具体例」または「中学生の現状」を「書き手が最も伝えたいこと」であると誤って捉えていると考えられる。指導に当たっては、英語で書かれた文章（意見文）には、「書き手が最も伝えたいこと」と、それを支える理由として具体例が書かれているという文章の構成があることを理解させることが考えられる。

【p.80「学習指導に当たって」（１）】

・ポイント２について

IRT バンド３に属する生徒は、IRT バンド１、２に属する生徒と比較すると誤答である類解答類１、３を選択する割合は低くなっているが、３割以上が解答類型４を選択している。文章における「書き手が最も伝えたいこと」と「その具体例」という文と文との関係を捉えることができていないと考えられる。指導に当たっては、“I think …” や “We should …” などの考えを伝える表現や “For example” などの具体例を表す表現に着目させて文と文との関係を捉えるようにすることが大切である。その際、書き手が最も伝えたいことだと判断した根拠を話し合う活動を行い、事実と考えに分けて文章の構成を確認させることも考えられる。

【p.80「学習指導に当たって」（２）（３）】

・ポイント３について

IRT バンド４に属する生徒の７割以上、および IRT バンド５に属する生徒の９割以上は、正答である解答類型２を選択しており、相当数の生徒が、インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択することができていると考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）英語で書かれた文章の構成を理解させる

英語で書かれた文章（意見文）を読んで要点を捉えさせるには、文章の構成の１つとして、文章が「書き手が最も伝えたいこと（主張）」と、それを支える理由（例示・経験・比較など）で構成されていることを指導することが大切である。文章を読む前に、あらかじめ「意見文には主張と理由が書かれている」という文章の構成があることを理解することができていれば、生徒は全体の展開を見通しながら文章を読み進め、要点を捉えることにつながると考えられる。

（２）文と文との関係を捉え、文章の構成を理解させる

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えるためには、特定の部分にのみとらわれることなく、文章全体を通して読み、文と文との関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落との関係などの文章の構成を理解することが大切である。

言語活動を行うに当たっては、文と文との関係を把握することなどを通して、文章から取り出した複数の情報を比較することで、どの情報が最も重要であるかを判断し、書き手が最も伝えたいことを捉えることが重要である。

例えば、英語 10（１）においては “I think we should use the internet for leaning more often because it is useful.” は、“I think …” や “We should …” などの考えを伝える表現、 “For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand.” は、“For example” という例を挙げる表現を用いていることから、インターネットの使用が学習に役立つという主張と、それを支える１つ目の具体例とその詳細であるという文章の構成を捉えることが大切である。

（３）書き手が最も伝えたいことだと判断した根拠を話し合う活動を設定する

文章を読んで、要点を捉えるためには、文章を読んだ後で、書き手が最も伝えたいことは何か、なぜそう考えたのかをペアやグループで話し合う活動などが考えられる。ペアやグループで話し合ったことを学級全体で共有する際に、事実と考えに分けて文章の構成を確認させたり、考えを伝える表現や、例示をするための表現などに着目させたりすることで、他の文章を読んでも要点を捉えることができるように指導することが大切である。

（４）言語活動の例

- 健康的な食生活、インターネットの使用、皆が過ごしやすい学校づくりなどの話題に関して書かれた教科書の登場人物の意見文を読み、書き手が最も伝えたいことを捉える活動
- スピーチ、新聞、ホームページなどへの投稿文の形式で書かれた文章を読み、書き手が最も伝えたいことを捉える活動
- 身近にあるロボットなどの科学技術に関して教師や ALT が書いた意見文を読んで、最も伝えたいことを捉える活動

なお、平成 31 年度（令和元年度）【中学校】英語 7 のように、複数の段落からなる文章を読んで、要点を捉えることも大切である。その際には、段落相互の関係を捉える指導などが考えられる。

英語 10（１）は、「聞くこと」と「読むこと」の違いはあるが、英語 5 と同じように「社会的な話題について、要点を捉えること」ができるかどうかをみる問題である。そのため、「社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えること」ができるようにする指導も併せて行うことが考えられる。

設問（２）

趣旨

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における目標

書くこと

ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

書くこと

(ｴ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。

１．解答類型と反応率

問題番号			解　答　類　型	反応率（%）	正答
10	(2)		（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 条件①　書き手の意見に対する自分の考えを書いている。 〈解答欄〉の「あなたの考え」に該当する部分 条件②　条件①の理由を書いている。 〈解答欄〉の「なぜそう考えるのか」に該当する部分		
		1	条件①、条件②を満たして解答しているもの	22.8	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答しているもの	5.5	○
		3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	35.4	
		4	条件①を満たして解答しているが、条件②に関わる記述がないもの	8.2	
		5	条件①を満たしていないが、条件②を満たして解答しているもの	2.0	
		6	条件①に関わる記述はないが、条件②を満たして解答しているもの	0.2	
		7	条件①、条件②を満たさないで解答しているもの	9.6	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	2.0	
		0	無解答	14.4	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す。

（N= 861,464 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 28.4%である。インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書くという本問では、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が 35.4%、解答類型７の反応率が 9.6%、無解答の反応率が 14.4%と高い。

○　令和５年度【中学校】英語8（２）では、社会的な話題に関して読んだことについて、考えと理由を書くことができるかどうかをみるために、ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題を出題し、正答率は 20.1％であった。今回の結果から、社会的な話題に関して読んだことについて、考えと理由を書くことに引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

・Your opinion is good. Students can get a lot of information for learning on the internet.
・Yes, I do. Because we can practice and learn English for free on the internet.
・I agree with you. I often use the internet to study English.
・No, I don’t. Because the internet is not good for our eyes.

解答類型１に該当する生徒は、インターネットの使用に関して読んだことについて、考え（条件①）とその理由（条件②）を書くことができている。このことから、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができていると考えられる。

※解答欄を２つに分けているため、本問では Because から始まる従属節の単独使用は文法事項などの誤りには含めていない。

○　解答類型２の例

・_ Opinion is good. Because the internet has a lot of. information.　（所有格の欠落）
・I think your opinion is good. The video is easy in learning English.　（前置詞の誤り）
・Yes, I do. I think many good dictionaries is on the internet.　（be 動詞の誤り）
・No, I don't. Because internet sometimes making mistakes.　（動詞の活用の誤り）

解答類型２に該当する生徒は、英語の表現に関して、所有格の誤り、be 動詞の誤り、形容詞の誤り、前置詞の誤り、動詞の活用の誤り、軽微な綴りの誤りなど一部不正確な表現は見られるが、読み手に伝わる英語で書いている。

※解答類型３以降は、語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、条件に関する記述なし、内容の矛盾などがあるため、「条件①」または「条件②」あるいはそのどちらも満たしていないとしている。

○　解答類型３の例

・I think your opinion is good. I think students will find is very good.
・I agree with you. I think paper dictionaries is more useful than internet.　（内容の矛盾）
・No, I don’t. The internet is not to play games.

解答類型３に該当する生徒は、自分の考え（条件①）を書くことはできているが、理由（条件②）を書くことができていない。

○　解答類型４の例

・Your opinion is good.
・I think we should use the internet.

解答類型４に該当する生徒は、自分の考え（条件①）を書くことはできているが、理由（条件②）に関わる記述がない。書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く内容は思い浮かんだが、理由を書くために必要な表現が身に付いていないことが考えられる。

○　解答類型５の例

・I think for learning English. We can get new ideas on the internet.
・I think my opinion is videos for learning English. Because they are easy to understand.

解答類型５に該当する生徒は、自分の考え（条件①）を書くことはできていないが、理由（条件②）を書くことはできている。書き手の意見に賛成したり、反対したりするなどの自分の考えを書くために必要な表現が身に付いていないと考えられる。

○　解答類型６の例

・There are a lot of information on the internet.
・There are many English dictionaries on the internet.

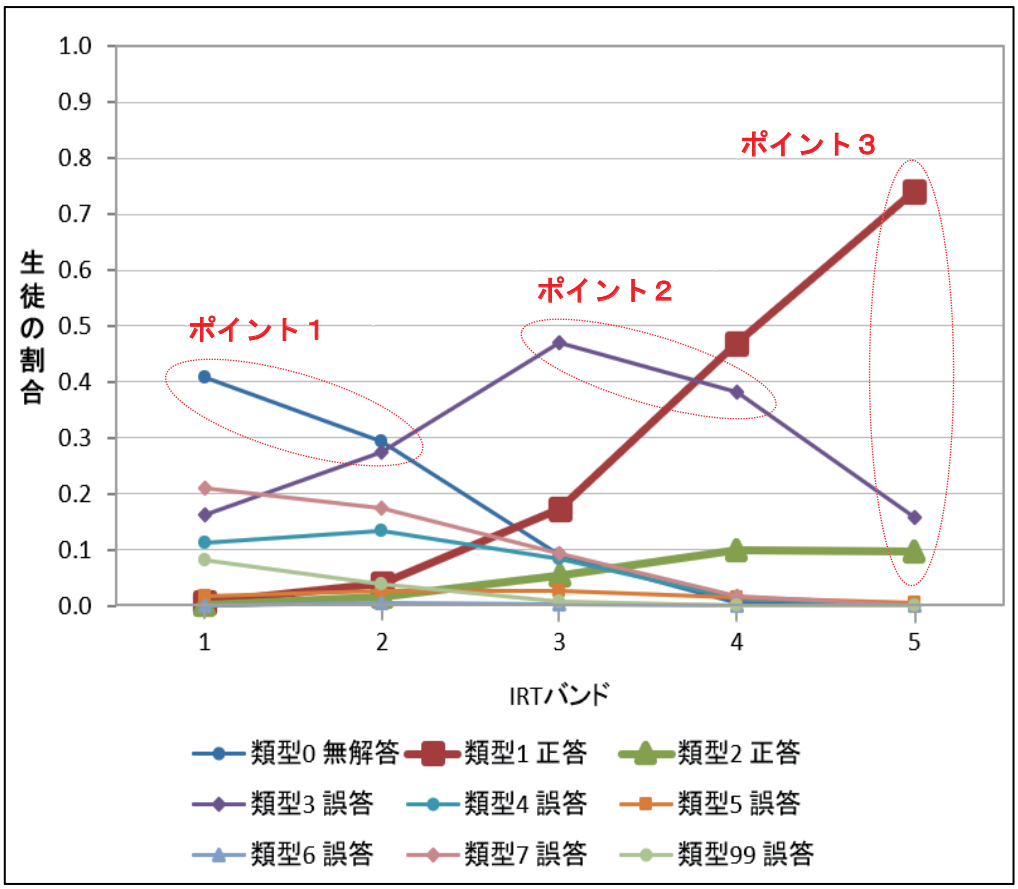
解答類型６に該当する生徒は、理由（条件②）を書くことはできているが、自分の考え（条件①）に関わる記述がない。書き手の意見に賛成したり、反対したりするなどの自分の考えを書くために必要な表現が身に付いていないと考えられる。

○　解答類型７の例

・I think should use to study good.
・I’m nice junior high school student learning English. I’m good dictionaries on the internet.
・I am leaning English because English word.
・You is good.

解答類型７に該当する生徒は、自分の考え（条件①）とその理由（条件②）を書くことができていない。書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く内容は思い浮かんだが、自分の考えとその理由を書くために必要な表現が身に付いていないと考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１に属する生徒の４割以上、および IRT バンド２に属する生徒の約３割が無解答である。書くことができなかった要因として、①文章の内容が読み取れず、書くべきことが分からなかった、②文章の内容は読み取ることができたが、何を書いたらよいのか思い浮かばなかった、③文章の内容は読み取ることができ、書く内容も思い浮かんだが、英語の表現が分からなかった、などが考えられるため、生徒の課題がどこにあるのかを見取り、それぞれに応じた指導を行うことが大切である。指導に当たっては、書かれている文章の内容と問われていることを確認した上で、書き手の意見に対して、賛成か反対かなどの立場を明確にさせ、それを「自分の考え」として書くことから指導していくことが考えられる。

【p.85「学習指導に当たって」(１)(２)】

・ポイント２について

IRT バンド３に属する生徒の４割以上、および IRT バンド４に属する生徒の約４割が、誤答である解答類型３に分類されており、自分の考えを支える理由を書くことに課題があると考えられる。何かしらの英語を書いてはいるが、内容に矛盾があったり、コミュニケーションに支障をきたす誤りがあったりするため、指導に当たっては、読み手に伝わる表現で理由を書くことができるように生徒同士でコメントさせ合ったり、教師からのフィードバックを与えて表現を考えさせたりすることが考えられる。　【p.85「学習指導に当たって」(３)】

・ポイント３について

IRT バンド５に属する生徒の８割以上が、正答である解答類型１、２に分類されており、おおむねの生徒が、インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができていると考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）文章を読んで要点を捉えた後、自分の考えをメモに整理させる

読んだことを基に、その内容に関する自分の意見や感想などを書く際には、主張とその理由を明らかにしたり、順序付けを行ったりすることにより、読み手にとって分かりやすい文章を書けるようにすることが重要である。

そのためには、文章を読んで要点を確認した後、自分の考えをキーワードとしてメモなどに整理させたり、思考ツールに整理させたりすることが考えられる。例えば、書き手の意見に対して賛否をメモに書かせたり、賛成の場合は、理由も同じなのかどうか、反対の場合は、その理由をメモに整理させたりすることが考えられる。

メモに整理させても、賛否を示せなかったり、理由が思い浮かばなかったりする場合には、書き手の意見に対して感じたことや考えたことをペアでやり取りさせ、話題に関する理解を深めてからメモに整理させることも考えられる。ただし、いつでもペアで話してから書くのではなく、単元を通して次第にペアで話さなくても読んだことについて書く力を身に付けさせていくことに留意する。

このようにメモに自分の考えを整理することで、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して、読み手に伝わるように自分の考えや感想などを書かせることが大切である。

（２）簡単な「書くこと」の活動を繰り返す

読んだことについて自分の考えとその理由を書くこと、まとまりのある内容を書くことができるようにするためには、簡単な「書くこと」の活動を繰り返すことが大切である。例えば、“I agree / don’t agree with… because…” などの表現を用いて書き手の意見に対する賛否とその理由などを話した後に、話した内容を１～２文程度で書かせることが考えられる。また、書いた文章を互いに読み合い、自分が書いた文章に必要な内容を書き加えることなども考えられる。

（３）正確に書く力を高めるために、生徒同士でコメントさせ合ったり、教師からのフィードバックを与えて表現を考えさせたりする

英語 10（２）では、条件①「自分の考え」を書いているが、条件②「なぜそう考えるのか」を書いていない解答類型３の反応率が 35.4％となっており、他のどの解答類型の反応率よりも高い。解答類型３に分類される生徒は、「なぜそう考えるのか」について何らかの英語を書いてはいるが、コミュニケーションに支障をきたす誤りがある。このことから、読み手に伝わる表現となるように伝えたい内容を正確に書く力を高めることが重要である。

読み手に伝わるように正確に書く力を高めるためには、生徒同士でコメントさせ合ったり、教師からのフィードバックを与えて表現を考えさせたりすることが大切である。生徒同士でコメントさせ合う際には、自分の考えとその理由が伝わるかという視点から、語句の選択、語順などの文構造、動詞の活用、語の綴りなどについてコメントし合うことが考えられる。教師がフィードバックを与える際には、どのような課題があるのかを把握する必要がある。多くの生徒に共通した誤りがある場合や、重要な文法事項などに関する誤りがある場合には、学級全体で確認することが考えられる。生徒ごとに異なる誤りがある場合には、辞書を活用させたり、教科書にある表現を確認するように促したり、インターネットや AI などを活用させたりして、表現の誤りを訂正させることが考えられる。

（４）言語活動の例

- 身近な環境問題に関わる意見文を読み、友達に納得してもらえるように、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く活動
- 平和な世界を築くために大切なことについて書かれた新聞への投稿文を読み、読み手に共感してもらえるように、自分の考えとその理由を書く活動

授業アイディア例３　短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く

１．関連する調査問題と正答率

英語 10 （１）　読むこと　正答率　48.1％　　調査問題（クリック、読み込み）
（２）　書くこと　正答率　28.4％

２．中学校学習指導要領における目標

読むこと　ウ　社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

書くこと　ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

３．　単元計画

（１）単元の目標

未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように、ロボットに関する意見文を読み、その内容に基づいて自分の考えと理由を書くことができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較表現の特徴やきまりを理解している。 ・比較表現などを用いて、自分が考えたことや感じたこと、その理由などを書く技能を身に付けている。	未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように、ロボットに関する意見文を読み、その内容に基づいて自分の考えと理由を書いている。	未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように、ロボットに関する意見文を読み、その内容に基づいて自分の考えと理由を書こうとしている。

※「記録に残す評価」は第８時と後日に行う。

（３）単元展開

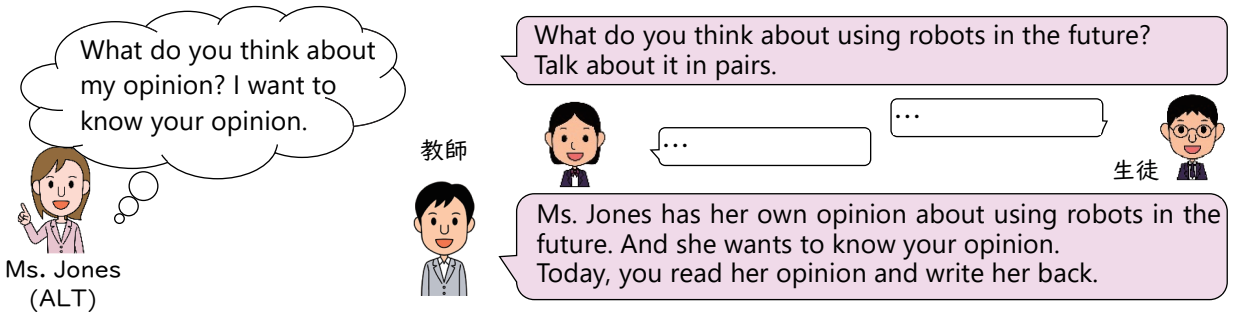
時間	■ねらい 知 知識及び技能　聞 聞くこと　読 読むこと や 話すこと［やり取り］発 話すこと［発表］書 書くこと 促したい生徒の気付き、振り返り	※指導上の留意点
1 2	■単元の目標を理解する。 聞　身近なロボットについての教師の話を聞き、単元の目標を理解する。 「なるほど！」と言ってもらえるように、自分の考えを書いて伝えたいな。 や　身近なロボットについて、友達とやり取りする。 知　比較表現の特徴ときまりを理解し、比較表現を用いて、ロボットについて表現する。	※「未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように」というコミュニケーションを行う目的を明確にする。 ※第３時以降も比較表現の指導を継続して行う。
3	■ロボットができることについて書かれた教科書の文章を読み、その内容に基づいて考えたことや感じたことを伝え合い、書いて表現する。 読　比較表現を含む文章を読み、（１）ロボットに出会ったこと（２）それができることの具体例、をメモや線を書きながらワークシートに整理する。	※情報と情報との関係を把握させる。

	「ロボットができること」が２つ書かれている。 や（１）と（２）のそれぞれについて、考えたことや感じたことをやり取りし、学級全体で共有する。その際、「相手に納得してもらえるかどうか」という視点から内容と表現を振り返る。 書　やり取りした内容を踏まえて、考えたことや感じたことを書く。 ロボットができることや自分の経験を話すと相手に納得してもらえる理由になりそうだ。	※ロボットに出会ったことがあるか、それは何ができたのか、どう思うかなど生徒が話した内容を板書する。 ※生徒同士のやり取りから、“I saw the robot, too.” など、理由として、経験を伝える表現を取り上げて板書する。
4	**■教科書の登場人物がロボットを使用する賛否を話している対話文を読み、その内容に基づいて考えたことや感じたことを理由とともに伝え合い、書いて表現する。**	
	読　比較表現を含む対話文を読み（１）登場人物の考え（２）理由をメモや線を書きながらワークシートに整理する。 や　（１）と（２）のそれぞれについて、考えたことや感じたことを理由とともにやり取りし、学級全体で共有する。その際、「相手に納得してもらえるかどうか」という視点から内容と表現を振り返る。 書　やり取りした内容を踏まえて、考えたことや感じたことを理由とともにメモに整理して書く。 書き手の考えには賛成だけど、理由は同じではなかった。より納得してもらえる理由を考えたい。	※情報と情報との関係を把握させる。 ※登場人物の考えに対する賛否、理由が同じかどうか、他に理由がないかなど生徒が話した内容を板書する。 ※生徒のやり取りから、“I agree with …” などの賛否を表す表現や “because …” などの理由を述べる表現などを板書する。
5 6	**■教科書の登場人物がロボットの使用のよさが書かれている意見文を読み、その内容に基づいて考えたことや感じたことを理由とともに書いて表現する。**	
	読　比較表現を含む意見文を読み、情報と情報の関係や “I think …” などの表現に着目して登場人物が最も伝えたいことを整理する。 読　登場人物が最も伝えたいこととその理由を学級全体で共有する。 書　登場人物が最も伝えたいこととその理由について、考えたことや感じたことを理由とともに整理し文章を書く。 書　AI を用いて、読み手に納得してもらえる内容になっているかという内容面と伝えたい内容が正確に伝わるかという言語面から自分が書いた文章を見直す。 書　修正した文章を学級全体で共有し、文章を書き直す。 書き手の意見に対する考えに加え、理由を詳しく述べることで、自分の考えが読み手に納得してもらえる文章を書くことができたと思う。	※情報と情報の関係を把握した上で、要点を捉えさせる。生徒自身で書かれている内容を整理させる。 ※必要に応じて、登場人物の考えに賛成か反対か、理由が同じかどうか、他に理由がないかを尋ね、書く内容を板書する。 ※コミュニケーションを行う目的に立ち返り、内容面と言語面から書いた文章を振り返らせる。
7 本時	**■未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように、ALT が書いたロボットに関する意見文を読み、その内容を基づいて自分の考えと理由を書いて表現する。**	
8	**■未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように、教師が書いたロボットに関する文章を読み、その内容を基づいて自分の考えと理由を書いて表現する。**	
	書　教師が最も伝えたいこととその理由について、考えたことや感じたことを理由とともに書く。	※第７時の活動を繰り返し、生徒自身の力でできるようにする。
後日	ペーパーテスト（令和８年度　全国学力・学習状況調査　中学校英語10など）	

４．第７時の展開案

１．コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握する

ポイント　意欲を高めたり、活動の見通しをもたせたりするために、「読み手に納得してもらえるように」というコミュニケーションを行う目的を明確にします。



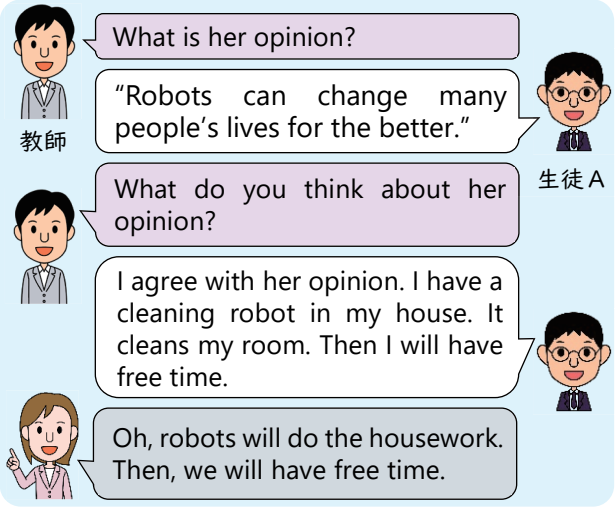
２．文章を読んで書き手が最も伝えたいことを捉え、それに対する考えを整理する

ポイント　情報と情報との関係を把握し要点を捉えるために、文章にメモや線を書いて整理させます。単元前半はワークシートを用いることが考えられますが、単元後半には生徒自身で整理させます。

文章へのメモや線の書き込み（例）　※文章は R5　全国学力・学習状況調査　中学校英語　英語８

例 Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. 例 At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. 例 We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?

分からない表現は各自で調べさせたり、教師が個別支援を行ったりします。



単元前半は、教師が書き手の意見は何か、それに対する賛否、その理由を尋ねて、生徒の考えを引き出します。
単元後半では、生徒の意見を We などに置き替えて一般化したり、客観的に表現する語彙を用いてフィードバックしたりして、より納得してもらえる理由となるように支援します。

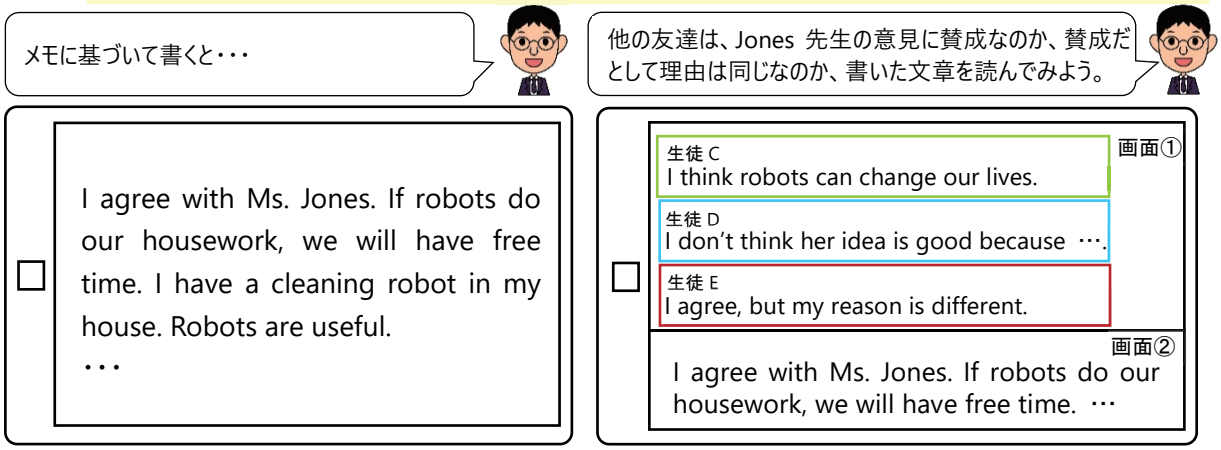
Jones 先生や友達に納得してもらえるように、３時間目に学習した自分の経験を理由として述べるだけではなく、多くの人にとって役立つことを入れてみよう。

□ Ms. Jones の意見について
agree
理由
cleaning robots（housework）　(経験)
↓
free time　※ "We" の視点

生徒 A のメモ（例）

3．書き手が最も伝えたいことに対する自分の考えと理由を書く

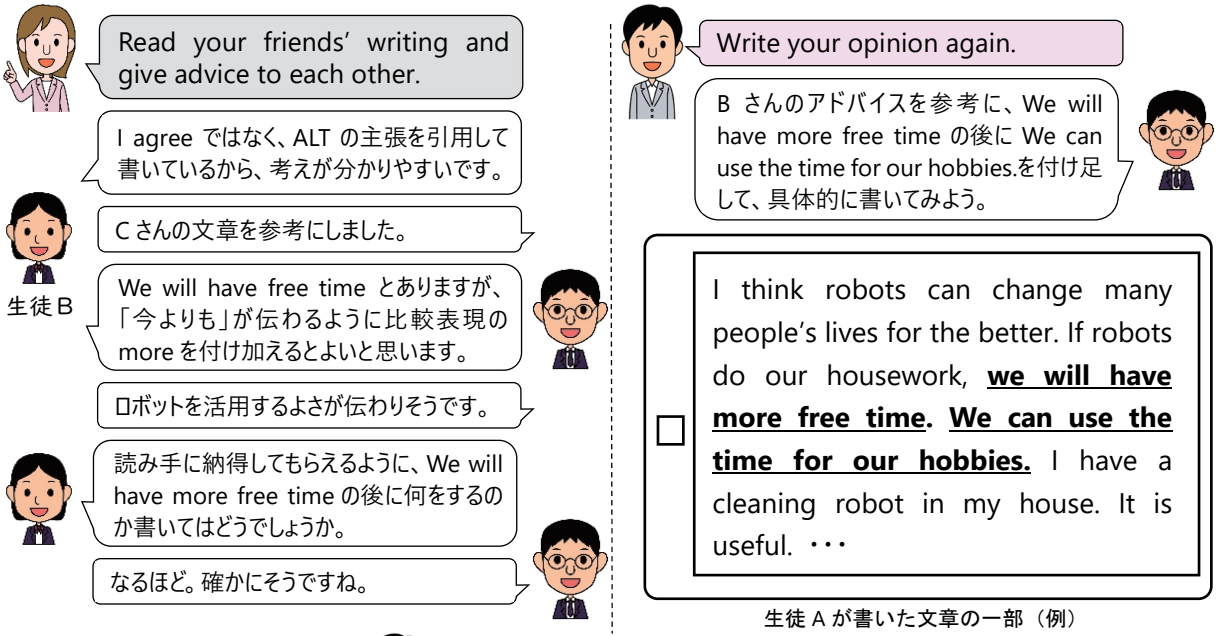
ポイント　整理したメモを基に個人で自分の考えを書かせます。その後、「読み手に納得してもらえるように」というコミュニケーションを行う目的に応じて表現するために、AI を使用させたり、友達の書いた文章を参照させたりすることが考えられます。

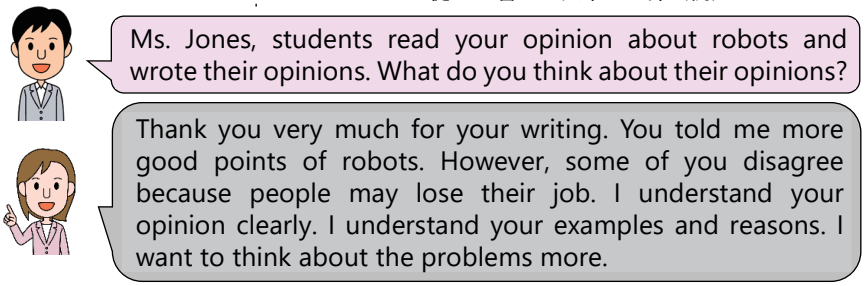


生徒 A が書いた文章の一部（例）　　生徒 A が書いた文章の一部（例）

4．書いた文章を読み合い、内容面と言語面から見直す

ポイント　書いた文章を推敲するために、友達が書いた文章を読み合わせ、読み手に納得してもらえる文章になっているかどうか、正しく伝わるかどうかという視点から振り返らせます。



生徒 A が書いた文章の一部（例）

生徒の考えを知りたいと願っていた ALT からフィードバックをもらい、「納得してもらえるように」というコミュニケーションを行う目的が達成されていたかどうかを確認します。